



美川の林業を未来へ

Vol.101

数井 虎夫さん
(美川町在住)

美川町優良材生産研究会代表。市内の小・中学生向けの森林体験学習で講師をし、間伐など林業について子供たちに指導する。平成6年度山口県指導林業士認定。



「知らない人が多くなってきましたが、美川は林業のまちでした」と話すのは、美川町優良材生産研究会代表の数井虎夫さんです。

昭和初期、旧美川町では出荷する木材でいかだを造り、錦川に浮かべて下流へ運ぶ風景が見られました。昭和後期には県内で最も林道の密度が高く、いつもどこかでチェーンソーの音が聞

▼木材をいかだで下流へ運ぶ風景を約60年ぶりに再現した(平成16年)



こえていたそうです。小まめに枝打ちした木は質が良く、高値で買い取られることから、数井さんも毎日山へ行き、木の手入れをしていました。

美川の木の価値を上げるため、地元の間伐と平成6年に今の団体を結成します。しかし外国産木材の流通などによって国内産の価格が下がり、道路や線路の影響で木材の運搬も難しくなっ

たことで、美川で林業をする人が減っていきました。

現在、数井さんは林業の傍ら、森林体験学習の講師をしています。「学習中、山で力いっぱい走り回る子供たちを見て、やっぱり子供は自然の中で遊ぶのが一番だと思いました。この体験をした子が林業の職に就くとは限りませんが、自分で切った木片を大事そうに持

って帰る姿を見ると、自然に触れる機会を作ってよかったと思います」

子供たちに特に伝えたいのは、間伐の大切さと言います。「間伐をしないと山に光が入らなくなり、草が生えず土が痩せ、地滑りが発生する場合があります。また間伐した木材をそのまま放置すると、大雨のときに流木被害の原因にもなります」。数井さんは今、間伐材の有効利用として、間伐材でいかだを造り錦川に浮かべ、かつての美川の風景を再現する活動をしています。

「今はどれだけ山に行ってもお金にならないので、林業をやってもよかつたと思える時代は、自分が生きている間にもう来ないかもしれない」と林業の行く末を心配する一方、子供たちへの指導も、いかだ造りも「やっぱり木が好きだから」と笑顔で話す数井さん。これからも美川の林業と間伐の大切さを伝える活動を続けていきます。



▲地域の人と協力していかだを錦川に浮かべる



▲森林体験学習では、もやい結びなどのロープワークを指導